

## 判断デザインのアンラーニング・リラーニング

ストック型産業に必要な判断処理能力を、前例適用型の判断様式をアンラーニングし、構造化された判断対象・条件・手順をリラーニングすることで、段階的に理解・実装する。

項目	質問	疑問	問い	判断
目的	情報収集 (知識の差)	現実把握 (現実の差)	本質定義 (差の理由)	実行決定 (差を埋める)
対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>前例</li> <li>仕様</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事実</li> <li>条件差</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原因</li> <li>意味</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>方針</li> <li>優先度</li> </ul>
思考	検索・確認	観察・比較	理由・関係	意思・決定



質問は「知らないと気づいていることを確認」。疑問は「自分の前提と現実の差を見る」。問いは「なぜ差があるのかを考える」。判断は「差を埋めるためどうするか考え決める」。